Vol.39

## 岩屋寺大師堂の不思議

タウンツーリズム講座主宰 ヘリテ ージマネージャー

岡崎直司



欄が巡らされミニチュアの楼閣仕立てになって められない。屋根の形は宝形という堂宇建築とられているため、全景は正面左方向からしか眺 作り込み。 宝珠の部分はただならぬ気配。 しては一般的な形で、 観させていただくこととする。境内の広さが限 頂部で交わり、そこに宝珠が鎮座するのだが て、全て銅板張り。類例の無い、 大西御住職に許可を得、 ただ屋根のトップにある いよいよ大師堂を拝 してみよう。 四面 しかし丁寧な の屋根が最 か眺

故お寺の正面にこの飾りが。花は、これもよく りのある如く、カーテンの房を絞り込んだ形。何 うな飾り。ウーン、これは明らかに洋風デザイン まず気の付くのが両脇の柱の上方にある花のよ かり易く例えれば、 ではないか。建築用語で言う、ドレープ、だ。分 では、まずこの建物を正面から眺めてみよう。 松山にある萬翠荘に似た飾

た、愛媛温故紀行、に初登場したワケだが、その 平成14年に県の近代化遺産調査でまとめられ つある。

本堂と今日の目的である大師堂が建っている。 囲の境内に目をやると、更に一段高いところに

実は今、この建物が識者の間で注目を浴びつ

元はと言えば、その価値については

そうして見上げた時に、まず目に入るのが庫裏

あえぎながら坂を上ってやっとたどりつく。

に相当する建物。よく見れば、背後に迫る岩峰

メリ込むように建てられていて息を呑む。

息ついて、これら急峻な地形を利用した周

さり、誠にもって霊場にふさわしい景観を醸 通りの屹立する険しい岩峰が背面におおいかぶ

まいの寺院建築を愛する人は多い。

その

名

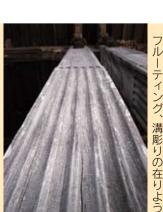
第四十五番札所「海岸山岩屋寺」。この独特

ている。参拝の方々も、

麓の駐車場から約20分ほ



よる。氏によると、 魅力を私なりに解釈 起こしながら、 もらった当時を思い 査の際に、とくとそ 前代未聞、 建築家和田耕 きっかけは、 ルについて解説して の異様な建築スタイ の建築だという。調 空前絶後 砥部 その





屋根の頂部にある異形

奇妙な内部彫刻

正

よく見れ

ラと射

いっ牡丹ならワカル。 面頭上左右でニラミ

から。 ŧ しいだろう、寺なんだ 唐獅子との整合性。 を効かす木鼻の部分の ラ、ローズは可笑 で

は、フルーティング、と り込まれている。 いうやはり西洋の建築 柱 の下部には 5溝が彫 これ

胆なフォルムが通常の和のソレではない。 その形は決まっているが、これはかなり洋風ア 宝珠に似せた形の擬宝珠であるから、おのずと をやれば、 レンジされた形状。建物四方隅の木鼻も、 匠。 マ、ば、擬宝珠の形も何だかへン。普通なら、まだまだある。堂の周りを巡る欄干に目 波の大 0)

意

う。 ティングのオンパレー らない。須彌檀の赤い漆塗りも下部にはフルーまた、堂宇の内陣にも洋風はとどまる所を知 羽を広げたようなアレは、 …と、ここまで書いて気がついた。でも何故 ド。 何を意味するのだろ 頭上の四方に大鷲が

無い。伝統建築そのものであるはずの寺院建築 それなりに美しい。均整が取れていて違和感 に、この西洋アレンジの不思議 ここに手がかりが一つ。棟札である。 体どうした事だろう。 な装飾のフィ 屋根裏

> 十一月廿日竣工となっている。 明記され、大正四年五月十日に起工し、 論当時のご住職に信徒総代、 治郎ほか五名。そして、木挽きやら石工やら、 つ前の札所大宝寺なども建てた名棟梁・ 吉と児嶋嘉太郎。加えて大工は、岩屋寺本堂や にあった証拠品の写真を前掲の和 現在の松山市余戸出身。現場監督は冨永常 それによると、 設計監督は河口 世話人などなどが 田氏 庄 から頂 一同九年 ·窪田文 なる人

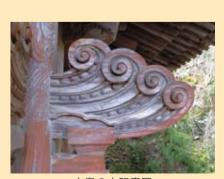
背景は立ちこめた霧の中である。 雲海たなびく海岸山の寺号の如く、 何よりの証としての原図はまだ見つかっていな としての人間力に、 その挑戦の答えを出している。この人の建築家 洋の意匠をためらわず融合させ、完結した美で 的と思われる日本の伝統建築である寺院に、 としての納まりを見る限り、 ての答えはどこにも見つかっていないが、 力量の人物には違いない。 今のところは、この建物の特異な装飾に 霊場が醸す精神世界の印象のまま、 興味がかきたてられるが、 設計者河口は余程 ある意味最も保守 いまだその あるい 全体 0 西 は 13 http://blog.goo.ne.jp/eye345



建築のタイムカプセル "棟札"

■ブログ「岡崎直司の岡目八目」

,1



木鼻の大胆意匠



変形擬宝珠



塗りの須彌壇